

第4回二戸市総合計画審議会 議事録(要旨)

1 日 時：平成27年11月5日(木) 午後1時30分～午後3時30分

2 場 所：二戸パークホテル

3 出席者(敬称略)

(1) 委 員

青木 光、阿部 悦子、安保 公一、五日市 真一、遠藤 享、大久保 瞳、小野寺 幸司、久慈 浩、柴田 清克、下館 光弘、平 裕一、長葭 常紀、浪岡 正行、成島 英史、馬淵 貴尋、三角 壮一

(2) 市 側

市長 藤原 淳、総合政策部長 大沢 治、総務部長 田中館 淳一、市民生活部長 佐々木 建一、健康福祉部長 阿部 満男、産業振興部長 三角 正裕、建設整備部長 山下 謙二、浄法寺総合支所長 三浦 幸治、教育部長 樋口 敬造

(3) 事務局

副部長兼政策推進課長 石村 一洋、副主幹 泉山 茂利樹、主任 藤原 悠治

4 会議の概要

1) 開 会

2) 市長あいさつ

大変お忙しい中お集まりいただき御礼申し上げます。

今日が4回目ということになったが、3日の日に合併10周年記念式典を開催させていただいた。

その中で、今までの成果、課題等も挙げながらおかげさまでここまで辿り着きましたというあいさつを申し上げた。

これからは、人口減少とか少子高齢化という壁があるが、これを市民協働や人づくりをしながら進めていきますということをお話して、キーワードになるのは若い人たちが働く場所の雇用の場の創出、あるいは子育てをしやすい環境、高齢者には知恵を働かせながらいきいきと暮らせるまちを作っていくということを皆さんの前で約束した次第である。

次の計画の中には、ぜひともこの3つを入れながらやっていきたいと考えている。

今日は、今までご意見等をいただいていたものを1枚のペーパーにまとめながら、そして今後の方針はこういう方針でいきたいということを皆さんにお謀りする予定であるが、市民の皆さんには分かりやすい方法と、みんなが情報と目的を共有する意味においてもあまり口説くならないような分かりやすい表現にできないのかなということで事務局の方に注文つけている。

皆さんのお知恵をお借りしながらそれらを作っていきたいと思うのでよろしく願います。

3) 議 事

○会長

皆さんこんにちは。4回目になった。

今、市長のお話ではできるだけ分かりやすく出した資料ということであるが、この会議を持つために3時間ほど打ち合わせをしてきたが、私の頭もまだピシッとしていない。

それくらい今日は大変な資料だと思う。1時間30分程度で終わりたいと思っているが、多少延びる

可能性があるのですが、その点についてはご了解を得たい。

事務局は、できるだけわかりやすく皆さんに、率直な意見が出やすいように説明をお願いします。

早速、議事1 二戸市総合計画(素案)について 事務局から説明をお願いします。

(1) 二戸市総合計画(素案)について

【資料の説明(石村課長が内容説明)】

○会長

それでは、ただいまの説明の補足として市長からご発言をお願いします。

○市長

まだ見にくいなと思って見ているが、流れはこのとおりである。

参考資料1を見ていただきたいが、計画の概要ということで、一番言いたくて皆さんにお願いしたいのは、右下の水色の部分である。そこまでにいく過程で皆さんから、多くの団体、多くの方々から参考意見をお聞きした結果、こういう風なご意見があって、これらを基にしながら基本構想が平成28年から平成37年ということで10年間の基本構想を作りますという風なものになっている。

今、石村君の方から皆さんに分かりやすいように流れを説明したものであって、盛って来るものについては、右下の方の部分になって来る。

1枚めくっていただくと、次が前期基本計画、これは5年間の基本計画になって、我々が実施計画ということで、これに金目のものをつけながら実際に事業を展開していきますという風な流れになっている。

私が思うに、これらをやっていくにはある程度割り切ったような考え方で、大胆な部分と詳細な部分というのが求められてくると思う。

大胆な部分というのは、30年先を見据えたような、また、10年先を見据えたような基本構想を立てて、2枚目にある実施計画の5年分については、詳細にかゆいところに手が届くような計画作りをしていかなければ実際もののできないのではないのかなという風に考えている。

例えば2枚目の農業の部分をとって見ると、農業を経営する、所得を向上するという風な文言があるが、その中でも農業の中には畜産あり、あるいは果樹あり、それから葉タバコあり、その他米とか様々なものがある。

畜産の中でも、鶏にするのか豚にするのか、牛にするのか、牛を見ても黒なのか、短角なのか、それらについても、さらに、子取りをするのか、育成するものなのか、という風なことで今日の新聞にも載っているが、今までにない位高い子牛の出荷等が載っているが、これらについてどう持っていけばいいものなのか、どうすれば農家に所得が入るのか。

二戸の場合は、牛の生産と葉タバコというのを組み合わせながらうまくやっているのが循環型農業というような形で、牛の堆肥を使いながら葉タバコに入れて、葉タバコの地力をつけながらいいものを作っていくというようなことで、どんどん繰り返しながらやってきている。

それらをどれくらいまでアイデアを出しながら農家の人たちと組み合わせていけばいいのか。

農業一つをとってもこのようなものなので、例えば、子ども・若者・女性についても、ある程度施策の中にこの辺のところを今まである部分の、既存のものプラス新しいアイデアとか、こういうものにしていったらどうなのかというふうなものを加味しながら、計画作りを進めていかなければならない。

基本的なものについては、多くの皆さん、多くの団体の方に参加していただきながら計画作りだけではなく、事業を進めていく上でも、多くの人に協力してもらいながらやっていかなければ、絶対これは成功しないなと考えている。

その中でも、若者が中心になって、その後押しをしてくれるのが、お年寄りというか、高齢者の方の知恵とか技術を若者たちに与えながらやっていけば、何年後についても元気な地域になっているのかなという風に勝手に想像している。

皆さんの意見もいろいろとお伺いしたい。

大胆な部分と繊細な部分は絶対必要だと思うのでよろしくお伺いしたい。

○会長

市長からも補足していただいた。

私の心境を申し上げますと、先ほど3時間ほどミーティングをしたが、私の頭の中では膨大すぎて、しかも30年後という私は103歳になる。その中に10年のこと、5年のこと、30年後のこと、これはどこからどういう風に入っていくといいかなという事を悩んでいる。

まだ、ピシッととはしていないが、どちらかというと、今日は答えを出すのではなくて今まで3回やってきた。今日は4回目。その中で、これをまとめたものもあるが、重複しても構わないので、皆さんからいろんな質問なり、ご意見、提案を何でもいいので出していただく。それをまた、5回目にやって最後に6回目で締めていただきたいという風な考え方でいる。

個々に見ていると相当な分野で網羅されているような感じがするが、その辺のことをご理解いただいて、この会議を進めていきたい。

それでは、早速、ご意見、ご提案があれば挙手をお願いする。

○委員

見せていただいたが、どんな二戸市にしたいというのが見えない。

僕はもっとスローガンをきちっと上げるべきだと思う。

例えば、県北の中心に二戸市を育てあげるとか、何かそういうピシットしたスローガンがないと色んなことがいっぱいあるが、どれを第1選択にやって何をその次にやったらいいのか全然見えない。

人口減少をそのまま認めているが、それでいいのか。そうではない。

人口が減ったら困るのは二戸市なので、周辺から人を集めることを考えなければ駄目なのではないか。

例えば、市長さん、合併をがんばるとか、地域の真ん中になるように医療機関を全部ここに集めるとか、老人ホームを全部集めるとか、色んな方法がある。

それをきちっとやっていないので、何をやりたいのか見えない。

だから、末端のことはいいと思うが、末端の何を中心にやったらいいのかというのが、そのスローガンを中心に考えれば、ちゃんとフローでこれが大切だとか、例えば住宅、浄法寺の人たちがこっちに引っ越してきて年寄りを預けて住めるところがあるのかとか、そういうことを考えていくと一番はじめにやるのが自ずと決まってくるのではないか。

それを第1選択として5年でやって、次は自然に人が集まるように、最後に花が咲くようにという形にしたらいのではないかと思う。いかがか。

○政策推進課長

二戸市で何をやるのかということで質問いただいたが、30年後の将来像を話し合った時にこれまで多くの皆様から意見を伺ってきた。

その部分について私たちが一番感じているのは二戸に暮らして良かったなという実感するという部分が一番大きいのかなということで受け止めさせていただいている。

今、委員の方から人口が減るのを黙って見ているなというご指摘があったわけだが、黙ってみているという気持ちは無いが、いかんせんどうしても増やそうにもなかなか増えないというのが現実であ

ってそのところは、これから考えさせていただきたい。

○委員

そうじゃなくて、減っていくのは日本中どこでも減っていく。どこが生き残るかである。二戸は岩手県の中で生き残りたいんでしょ。

だったら他から人を集めるしかないではないか。

じゃあここに人が集まるような楽しいまち、市を作る、これが目的だと思う。最後の方はいいと思うが、一番はじめの目的、県北の九戸政実をしたいんでしょ。要はここにお城を作って、立派な盛岡に負けない都市を作って残そうっていうんでしょ。

これぐらいの考えをしっかりと持たないと、負けちゃいますよ。八戸に取られちゃいますよ。

例えば、具体的に住民税を負けて住みよくするとか、ただでいいお家を作ってあげて軽米の人とかをみんな呼び寄せるとか、具体的に考えればいっぱいあるんじゃないですか。

○市長

委員から大胆な部分、本当に一番大胆な部分をご指摘いただいたと思っているが、合併についてお話しすると、10年前の時は国は合併に向けてアメとムチの部分を示してきた。アメの部分については合併特例債とか認めながら、合併した場合は、こういう措置がありますよというところでみんな合併に進んだが、これからを見ると国では合併について動きがなくて合併してもメリットがない。

その反面人口がどんどん減ってくると、県北地区も減少していくと何が残ってくるかという市役所とか、役場とかそういう行政自体をやる状態になるのかならないのか。

学校もそうである。人が減っていくと、自ずと閉校になって統合になっていくというようなものがこれから現れてくる。その時に何をやるかといえば地域地域が持った特色を分担しながらそれぞれやっていたいかなければならないのではないかと。というのは、今、委員がお話したとおり医療機関がこの辺では一番進んでいるし、久慈地域も含めて、久慈地域は今産婦人科がなくなって大変なことになって、二戸とか八戸も含めて広域でやるという部分があるし、医療機関については、この二戸地域は、中心都市になっていくし、新幹線とか高速道路もあって、交通の要衝になっている。

その反面、農地などを見ると、軽米とか九戸とか一戸とか、奥中山の方とか広がりを持っている。

それぞれが、特色を生かしたような地域づくりをしながら、広域、例えば二戸広域というようなものがあって、消防、介護、し尿、ごみと4つくらいやっているところだが、それらを連携しながらやっていく時代になるのかなと見ている。

確かにもっと力強く、二戸が県北の中心都市というより、新幹線関連からみると青森県南を含めたような中心都市になっていけばいいなという話であって、今も実質生活圏を見ると、三戸、田子、近隣については、二戸に買い物に来ている。医療機関にも来ているということがあるので、そういう拠点性を高めていくというようなものが需要だと思う。

それから、漆というものが今国が文化財に、国指定の文化財については、国産漆を使うということで出口がはっきりしているんで、作っても作っても、掻いても掻いても足りないというような状況になってくる。

それらを生かしたような特色ある地域づくりが必要になってくるという風に思う。

それらを総括すれば、何と言うキャッチフレーズにすればいいものなのか、県北の中心都市になればいいものなのか、何々日本一のまちづくりを進める市になればいいのか、そこを決めていただいて後は詳細に事業を実施していけばいいという風に思っている。

○委員

市長のいうことは良く分かって、恐らく時代はそういう風になってくると思う。生き残れると思う。

そういう場合に今市長さんが、浄法寺はどういう風な形で残したらいいのかというのは、自分の頭の中にあると思う。ビジョンが。そういうビジョンとか産業は残すというのであれば、浄法寺との距離を近くするとか、交通の道路を整備するとか、浄法寺の人たちがみんな二戸の近くの住宅に住んでくれて仕事だけそっちに行くとかそういうことを具体的に考えていかなければ駄目じゃないかなと思う。

市長さんの頭の中には恐らくぎっしりいろんなことを考えてやっているといると思うので、やはり基本的に一番になるのが、先ほど担当の方がお話ししたように安心して住めるということではないかと思う。

そのためには、仕事があり、健康が保てて、子どもがちゃんと育てられる、この辺の基本的なところを外さないようにしていけばいいまちができるのではないかと思う。

○会長

委員のご意見については、これだけやっても大変ですのでこのご意見を事務局できちっと捉えてそして、次の会議の時でもしっかり生かすように私から願います。

○委員

将来像についてである。今、委員がお話ししたように何がしたいか分からないというのが一番の原因だと思う。

市が描く将来像というものの中の言葉すべてが、主観的なもので人それぞれの価値、考え方が違うものばかりが並んでいると思う。

誇り、生きがい、住んで良かったと実感、これは人それぞれ全く違うものであって、こういったものが将来像に並んでいるということは、やはり30年後の将来像は描くのが難しいものだというのを物語っていると思う。

これを読んだ時に、分かるようで分からない、現総合計画の将来像は、はっきりと活力と安心歴史文化の薫る拠点都市、言葉一つひとつは抽象的であるが、目指している方向は分かって次のまちづくりの基本の方向に関心を持てる。

じゃあ何をやるんだろうというところに入っていけると思うので、30年後の将来像はやはりしっかり共通イメージのような言葉で逃げるのではなくて、私たちはこういうまちを目指すということをしつかり将来像として決めるのがまず先決なのではないかなと思う。

全部の市町村を調べて来なかったが、例えば盛岡市は、ちょっと古いが、将来像が3つ並んでいる。人が集い活力に満ちた北東北の交流拠点都市、恵まれた自然とともに互いに支え合う健康福祉都市、豊かな人間性を育み世界に拓かれた教育文化都市、3つあってもいいんじゃないかなと思う。将来像が。

やはり、具体性がないとこのままふわっとして計画を終えてしまっただけではいけないと思う。例えば30年後この将来像を振り返ったときに、住民からアンケートを取って、自分たちが住んでいるまちが住んで良かったと思いますかというアンケートに対して、住んで良かったという人がどれだけいるのかということと考えたら、普通、住んで良かったと答えると思う。

やはり、そこをもう少し固めてそれぞれの施策につなげていただきたい。

○会長

参考資料の2のところ、委員から話があったとおりキャッチフレーズをきちんと決めて進もうではないかという提案が後ほど当局の方からもなされるわけですが、その前に委員から出たことについて事務局から答弁をお願いします。

○政策推進課長

総合計画素案の冊子の6ページをお願いします。

今お話があったように、確かにまとめたものを記述している訳だが、実はここに至るまでに、しごと・産業・交流の部門の将来像とか、子ども・若者・女性の分野での将来像とか、暮らし・安心・健康での将来像というのは出ている。

今、委員さんからお話があったように、1つにまとようとして無理をするならば3つでもいいという一つの考え方もあると思うので検討させていただきたい。

○委員

今の6ページの話だが、将来像の中で言葉が長い。誇りや生きがいを感じ、二戸の魅力を活かし、新しいことにチャレンジしながら云々と書いてある。

これを、例えば委員がおっしゃるような形でいけばもっと短いセンテンスにして、出していけば分かりやすいと思う。

これずっと長いので、いいこと書いてある良く読んでいくと。

なかなか前日も委員が言ったように、このまちで生まれて、このまちで夢を持って生活していくというようなことをこれから考えていく必要があると思う。

これからは、お金がない、人口が減っていくと市長もおっしゃっていたので。

ただ、軽米町のやつをこの間見ていた時に、軽米町って人口が減っていくはずなのに減らしていない。

だから、二戸も夢を持つのであれば減らさないとか、増やすとかという、それは軽米町から引っ張ってきてもいいわけだから、一戸から引っ張ってきてもいいわけだから、八戸から引っ張ったっていいんだし、だから県北の拠点だという話を委員もおっしゃっているし、もうちょっと夢のあるようなものを作ってくださいといいかなと思う。

良くできていると思う今回は。とても分かりやすくいいなと思う。分かりやすくするために少し大胆さがなくなっているという感じがする。

○委員

見させていただいて、キャッチフレーズが必要だと思うが、この間出席した時もお話させていただいたが、2015年より前の30年間で二戸市一度も人口が増えたことがない。1年たりとも。毎年必ずずっと減り続けてきて、去年岩手日報さんにふるさと創生の方で人口減少推移の数字がその時初めて日本全国中にはっきり示されて30年後に人が減るんだと、しかもはっきりと具体的な18,000人という目に見える数字で示されることによって今初めて増やさなければならぬんだという風に皆さん思っていると思う。

30年、35年かけて減ってきたものをこの何年かで取り返そうとしている。

今、このまちの売りが何なのか、急に計画の中に盛り込んで、それに対して人が集まってくれるか、暮らししてくれるか、そういうことを今ここで議論して、急ごしらえの計画にしてしまう。その中の一つとして人口減少を入れるのではなくて、今年、文士劇に携わらせていただいたときにも感じたが、何をやるにも人である。

一人、二人では絶対できない。何をやるにも絶対に人を集めなければならない。それは、暮らしている人を集めるのか。それこそ、盛岡の方から文士劇に参加してくれる人もいたので、ちょっとくらい遠くても八戸、盛岡からでも、魅力的なコンテンツや必然性があれば、そこに必ず人が集まってくれる。

例えば、委員がお話したように人を集める手段や方策、そういうものをきっちり盛り込みましょうという話をされたが、委員も盛岡ではこういうことを掲げている、結局は大きかろうが小さかろうが

人を呼びたい訳である。

暮らす人が増えれば、病人やけが人も増える。病院もちょっと潤うかもしれない。二戸市の人口が増えれば新聞の購読者数が増えるかもしれない。そういうことである。

そのまちに対して、どんな必然性があるのか、自分がそのまちに何のために居なければならないのかということをごちから示してあげる、そういうアイデアが、今日は全国区で名前が知られている委員も来られているので、カーリング、盛岡の方にカーリングのシートができてしまったが、そういうものだって、1シート二戸にありますよ、24時間できますよ、年がら年中カーリングできますよというのが、そこで、お金がないからやりません、お金の話にしてしまったら、この計画だってほとんどできないではないですか。

これくらいの項目がある中で、じゃあ一つずつ予算をみていきましょうとなったら、いくつ実現できるでしょう。

それよりは、とにかく、1つ、2つ、目をつぶったとしても人を集めることをこれだけの皆さん、人を集めるところのコアになる人がこれだけ集まっているんですから、とにかく人を、人口を減少させない、人口を増加させる、人口減少の波に飲み込まれないような方策をこの計画の中に強く盛り込むことを希望する。

○委員

今から20年前、私は大それたキャッチフレーズを作った。それは、カーリングで、目指せオリンピックというキャッチフレーズだった。

どなたも相手にしてくれなかったもので、誰にも意見を言われることなく自由にやってこれたが、これが19年目に実現した。オリンピック選手が生まれた。

なぜ、オリンピックを目指したんだろうということを考えると、これくらい大きかったら気持ちいいだろうという気持ちだった。

ただ、私が尊敬する偉人の方々を見ると、田中館愛橋博士、世界の方である。このまちから世界で活躍する人がいたということも思ったときに、その子孫である我々が同じような夢を持たずにいたら、思想になるだろう。駄目で元々なんだから目指すのはいいだろうという風に考えて後で理由付けをした。

例えば、漆にしても酒にしても、既に世界に出ている。人材も出ている。産業も世界に比して負けないものがたくさんあると思う。後は、世界も目指す、世界に出てやろうというような人材をここで育てられるのかどうか。

さっき、会長がお話した30年後、ご自分の年が100歳を超えるという時、私も90歳になる。

90歳になった時にうちの若い者がよく頑張っているなど思えるようなまちになりたい。

俺らも頑張ったけれども、今の奴らも負けていないなと、すごいなと、すごいまちだと思えるようなまちが、誇りを持てるまちであると思う。

とてもまとまっていい資料だと私は思う。恐らく、オリンピックの夢を持つ前の自分だったら、まちが決めたことだからこうなるといいなくらいに思ったし、これが例えば表紙が、二戸市でなくても、九戸村でも、軽米町でも同じ計画書が作れるのかもしれない。

じゃあなぜ、これが二戸市の計画なんだというのを讀んだ時に、なるほど、二戸はそういうまちだもんなどというものが、周りの方からはあるはずだと思う。私はそれは、世界に羽ばたけるような人材、品物、考え方、そういったものを目指せるまちであるはずだという風に今であれば信じられると思っている。

気骨のある方もいるし、静岡出身の方、盛岡出身の方、地元の出身でない方から見たこのまちの魅力というものを、それから、ここで物をはっきりおっしゃってくださる方の意見というのは、非常に貴重だと思うし、今、このまちの人材はそういう方を増やせると私は思う。

ここを八戸のベットタウンにしよう。

○委員

この場で話し合っているのは、2つのことについて話し合っていると思う。一つは10年間の二戸市の総合戦略。もう一つが昨年の12月に法律ができたまち・ひと・しごと地方創生の30年後を見越してのまち。

どうも話が2つがごっちゃになってしまって、先行しているのは二戸市の総合戦略の方が先行している。

前回の会議でも人口ビジョンの話がちょっとあったし、本来は今日もこのテーマが予定されていたかと思うが、これがまた24日の方に繰り下げられた。

参考資料1を見ると、二戸市総合ビジョンは将来に向けた基本的施策の方向性は同じということで、話は後回しにされているようだが、本来、一番最初に話し合わなければならないのは、地方創生の方の話をした後に、10年後の二戸市の総合政策を作るという風な順番ではないのかなと思っている。

総合政策の話をする、全体像を示しているが、1つは地方における安定した雇用を創出する、後は、地域に新しい人の流れを作る、これが1番目と2番目に掲げられている。

つまり雇用がキーワードになる。前の会議の時にもお話したが、岩手県出身で外に出ている人が何があれば二戸市に戻ってきて仕事をし続けるかという、36%が全国、グローバルを相手にする仕事、第2位が自らの経験を生かせる仕事。ここに立ち返ると全国、グローバルを相手にしている先ほどからお話に出ているような業種が二戸の特徴になっていくのかと思う。

二戸市における安定した雇用を創出するには、大胆に、皆さんから言葉が出ているが、漆を頂点とする産業の支援、育成というところになってきて、ただ漆を作るだけではなく食文化、器、あるいは漆の研究というものもあるし、漆に蝶の粉を混ぜながら装飾品を作るという風な考えもあるようだが、それを海外に発信するような大きな産業を、すぐにできるわけではないが30年後を目指してその方向に持っていく。

もうひとつ比較的早くできるのは、この地区の中核企業を担う会社の支援ではないか。

地方への新しい人の流れを作るというところで、国の全体像に地方大学創設を5年間で考えたらどうかというのが謳われている。とっても大胆な話だが、二戸にそういう教育施設を考える。

ハコモノを作るというわけではないが、田中館愛橘さんの話があったが、会補舎、北の松下塾と言われていた。会補舎を復活というか、そういうところに立って教育機関を作る。

そこには、田中館愛橘さんにちなんだ物理関係の学科を作るとか、福田繁雄さんの先人にならうデザイン系、アパレル系を混ぜるとか、漆は重要なので素材的な学課を作るとか、九戸政実から学術経営戦略の学科を作るとか、そして、そこに二戸の宝であるカーリングとか、盛んである野球とか、部活を取り入れながら、そして、ヒメホテルとか民謡やら、座敷わらしがあって妖怪研究サークルというものもちまたでは賑わっているようである。

そういうのを大学にクラブ活動なり、研究活動をちりばめれば、話が長くなったが、国の総合戦略を主に考えて、産業を興して、仕事を興して、そしてまちを作っていくという考えもいいのではないかと思う。大胆にお話させていただいた。

○委員

30年後と想像した時に、この地域で社会に出て頑張っているのは今の子どもたちだと思う。

子どもたちの人づくりだが、もっと学校で地元のことを学べる機会を増やして欲しいと思う。漆のことがそうである。浄法寺小学校だけではなく、旧二戸地域の小学校にも漆の体験などをもっともっとさせて欲しいなと感じている。

後は、女性が働きながら子育てしやすいまちづくりも希望していて、子育てしやすい環境づくりも

そうだが、働きながら子育てしやすいという目線も必要だと思う。特に0歳から6歳、幼児の時間が一番手がかかって、私はその時に感じたのが働いている隣に保育所、面倒を見てくれるところがあればいいなと思った。

なので、地元の大手企業さんなどに支援していただきながら、子どもたちを預ける施設も、夢実耕望さんはあるが、もうちょっとそういう企業も増えてくれればいいのかと感じる。

○委員

私も子育てが終わってしまって、どちらかというとゆとりの世代になってきた。

私が人生の中で一番考えてきたのは、今、ゆとりになったので、例えば東京とか、大宮とかふらふら歩く時間がある。

行ったときに思うのは、若い女の人がひらひらスカートをはいたりして、すごい賑わっているし、呼び込みなんかもあって、これが都会だなと思って戻ってくるが、やはり私はそこでは子育てはできないなと思って帰ってくる。

今、委員もお話したが、私も子育てをしたが、その時に一番困ったことは、仕事には行かなければならないが、行かないと皆さんに迷惑をかけるし、自分も行けなくなるような気がして、切羽つまったものがあった。

もちろん私は0歳から、42日くらいから入れた子どもがあって、そんな時代ではあったが、本当に保育所に助けられたなという気持ちがある。

今は3ヶ月で入れるそうだが、保育所だけでは女性は安心して働けない。なので、私は二戸がいいなと思うのは、やっぱり人がやさしいなと思って帰って来る。

保育所に行けない時に、おばあちゃんとか、そういう方がまだ見れる力が二戸にはあるかもしれない。孫かてバンクみたいな、保育所だけでは女性は安心して働けない。

今現在、今日、二戸の雇用状況を考えたときに、やっぱり人手不足というようなことを私は感じるときがある。

幸いなことに二戸市は保育所はすぐに0歳でもいれてくれるので、とてもいいところだなと、本当にこれはすばらしいと思う。ただ、それでは女性は安心して働けない。37度5分になったら電話が来る。常に女性はそれを考えながら働いているので、もうちょっと見て欲しいと思いつつも皆さんに迷惑をかける、二戸の人は心配りの人なので、うまく仕事はしていきたいけれども、すいませんと言って抜けなければいけない。そういう時にもう一つ保育所から突き進んだお手伝いできるような、それは医療だからだめだということかも知れないけれども、何となく人間の気持ちで、孫でもいいし、おばあちゃんでもいいけれども、おばあちゃんにはここにまだいるかもしれない、東京はないなと思った。

それから、二戸のいいところは、おいしいものが食べられるとか、安全だとか、そんなことを考えながら帰って来ている。できれば、働く女性にもう一つ暖かい手を差し伸べていただければ大変二戸の雇用についてもいいのではないかなと思う。

○総合政策部長

大変皆さんからそれぞれの立場、あるいは経験を踏まえて貴重なご意見をいただき大変ありがたい。

個別にお答えできるのはなかなか難しい状況であるが、何点か補足説明をさせていただきたいが、委員から総合戦略の関係でお話があったが、実は、たまたま市の総合計画と国から示されている総合戦略・人口ビジョンが二つ同じ時期に策定を二戸市はするという状況である。

私ども、たまたま人口ビジョンは30年を目標にということになっているので、市の総合計画とも合っているということである。もう一つ、国の総合戦略は今年から平成31年までの5年間ということで市の総合計画とは若干、1年国の方が早まって作るような指示を受けている。

その辺を踏まえて先ほどお話のあったとおり、国からはある程度枠が示されているが、市としては、

今後どういうふうなまちづくりを進めるかというのがまずは基本に考えて、その上で市の考えを国の政策、あるいは、支援を受けるところにうまくつなげながら市の事業を進めたいという風に考えているので、今の時点では市の計画をしっかり作って、今後どうするかというのを組み立てて参りたい。

今日、様々な意見をいただいているので、これらを次回に向けての内部の策定作業に生かしてこれから成案を作って参りたいと考えている。

○会長

あっという間に1時間20分くらい経った。1時間30分くらいで終わりたいという考え方でいたが、私の考えが間違っていたようである。もうちょっと延ばさせていただく。

色んな意見の中から委員をはじめご意見が出た。やはり、基本構想とか、基本的な考え方、それからキャッチフレーズ、こういうものをしっかり掲げて、そして盛岡でもあるようにそういう風なものに向かっていくという考え方は事務局にもあるようなので、皆さんの資料の中に参考資料2というものがあるので、ご覧になっていただきたい。

実は、まだまだ色んな意見を聞いてと思うが、色んなことは資料の中に網羅されていて、私からの提案であるが、参考資料2の中のキャッチフレーズ、基本的な構想というところに絞って討論して参りたい。

何しろ、今回4回目で、5回目で終わる予定だったが、最後に予算案等をやらなければならないということで、あと1回増えて6回、あと2回やらなければならない。

したがって、限られた時間の中で、ある程度のことを決めていくということになれば、この基本構想についての討論も今日の皆さんの意見からすれば、やっていかなければならない。今日決めるというわけではないがその辺に絞ってご意見を賜りたいと思う。事務局いかがか。

○政策推進課長

会長さんのお話のとおり進めていただいて結構である。

補足であるが、事務局としても、決して人口減少を甘んじて受け入れるということでは考えていない。できれば、プラスにしたいというものはあるが、現実問題無理というところもあって、あまり強くないような表現になっている。

キャッチフレーズというお話があったが、基本理念のキャッチフレーズというところで、先ほど申し上げたように、人づくりを基本理念のひとつとして考えている。産業振興においても交流の促進、あるいは、まちづくりにしても原点はそこに住んでいる人であるという認識である。

その方が色んな活動をする、そして生きがいをもっていただく、また抽象的だというお話になるかもしれないが、そのようなことを感じていただけるようなまちづくりを進めていければという風なことで、これをうまくキャッチフレーズなり、共感できる文言として表せればいいのかと考えているのでよろしくお願ひしたい。

○会長

冒頭に委員の皆さんから色んなご意見等が出ていたので、もし、補足なりご提案があればいかがか。

○委員

市の説明は大体分かったが、市の方では大体決めているんだけどここでは言えないというような感じだと思う。

それが分からないとこっちは腹案をちらっとでもお話いただければそれについて枝葉をつけていける。もうちょっと具体的にお話いただきたい。

○政策推進課長

非常に簡単な言葉というか、基本理念にあるように人口が減る中で大変だけれども次の時代に向かって頑張っていこうというようなイメージで計画全体を作りこみたいというのが私たちのイメージである。

そういった観点から、例えば、未来に引き継ぐふるさとづくりの挑戦、であるとか、暮らしたいまちづくりへの挑戦、であるとかというふうな形の文言であればいいのかなと考えている。

このキャッチフレーズが将来像、都市のイメージを表す言葉ではなくて、30年後に向かって今自分たちがどういう風に行動するんだという風な行動に関してのスローガンというか、例えで言うとニューヨークに行つてうちの事業をやらせていただいているが、あれのキャッチフレーズは小さなまちの大きな挑戦という風なキャッチフレーズになっているが、そのようなキャッチフレーズがこの計画の中に盛り込めれば今以上に市民の方々と一緒に人口減少を捉えながらいいまちづくりを進められるのではないかと考えている。

こういうことで、未来に向かってとか挑戦するとかチャレンジするというような形の文言が入ってくればいいのかなと感じている。

○委員

まだ全然分からない。国の方針に照らし合わせて市はそれに向かって何かを選択して人口減少を食い止めるようなことをしたいとさっきおっしゃった。

それが具体的に何なのかというのは分かるでしょ。例えば、委員さんが言っていたように託児所をいっぱい作って働きやすい場所を作って人口を増やすとか、老人ホームをいっぱい作って東京からいっぱい人を呼んで、老人を呼んで、老後は二戸で過ごしてもらおうとか、東京から地方へでしょ。

この流れを作るのだからそういう具体的な何かを示してもらわないとキャッチフレーズも何もできない。

○総合政策部長

国の方で確かに地方創生ということで、何点か掲げているものがある。

それも雇用であるとか、子育てとか、あるいは交流の部分、人を地方に呼ぶとか、移すとか、そういう大きなくくりが、国の戦略の柱である。

それはそれとして、地方にとってもそれは大事な部分ではあるが、二戸というまちの今後10年間の計画をということで今策定作業をしているが、その中で様々ご意見をいただいた中で、これもかなり幅広い分野になるが、資料として議題になっている参考資料2のところだが、左側のところで政策1のしごと・産業・交流、政策2子ども・若者・女性、政策3暮らし・安心・健康、とうことで、これらがいわゆる総花的といえそうなるのかもしれないが、これらのことには基本的にはベースとして取り組んでいかなければならない。

この3つを支えるのが一番下の地域力、行政力、協働力ということで、トータルとして市全体を進めていくということだが、今委員からお話をいただいたのは市としてのアドバルーン的などという方向に向かうのかというのはもう少し皆さんに分かりやすく示す必要があるのではないかなというご意見だと理解させていただいている。

そこは、資料2の右側にある基本理念とかまちづくりの方向性、これがベースになってこれをもう少し力強く言うのがキャッチフレーズになれば皆さんに分かりやすいものになっていくのではないかなと私どもは考えている。

そういう視点でご意見をいただいて、それを基に私どもも次回に向けて成案としてお示ししていきたいと考えている。

○市長

力強いキャッチフレーズということで私も色々提案したが、全部蹴られている。例えば、大きく言えば北東北に輝くふるさとづくりへの挑戦とか、北岩手に輝くふるさとづくりへの挑戦という風なことを大きく掲げながらその中で子育てをしますとか、産業をやりますとか、地域をつくりますというものを3つくらい掲げていくようなものが納めどころなのかなという風に考えている。

その中でも一番皆さんからも前回も何かここに力強さが欲しい、ここの中心都市としてやっていく力強さが欲しいということをご委員さんから言われてきたところである。

今、何を目指して進めるのかということをご提案いただいたが、あまり北東北に輝くといっても人口3万人で1万8千人まで減るのにそこまで背伸びしていけるかなと思っても恥ずかしい話だなと。

北岩手に輝くふるさとづくりへの挑戦とか、いずれ、私はふるさとづくりへの挑戦だと思う。

それで、何の分野、何の分野という風なことであれば、やはり今柱となる働く場が無ければ駄目だ、子育てをしやすいような場所にならなければならない、安心して暮らせる場所にならなければならないという風な3つの、先ほど委員さんが言ったように盛岡あたりだと拠点になる部分について産業の中心都市となるとか、子育ての中心都市になるとか様々なものをあげて、暮らしやすいということになれば、医療が充実していると、他に比べて中学生まで医療費無料とか周りではやっているが、我々はそこまで行けなくて、それらについては、徐々に取り戻していくかなと、遅れているものについては取り戻すし、進んでいる部分については伸ばしていくという風なことはやっていかなければならないと思う。

今、皆さんからお聞きするものとすればそんなに大きく輝くものをつけていいのかなという感じがするが、本当に力強く、ここのところで何をやりたいのか、世界に向けた人づくりでもいいと思うが、それらに向けたふるさと、地域を作っていくということに挑戦していきたい。人口が減る中で我々は挑戦していきたいという風なことを掲げられればいいなというように思っている。

なかなかボキャブラリーもないので、ちょっと言葉が浮かばなくて何かいい案があったら教えていただきたい。

○委員

今市長がおっしゃったように、考えそうな言葉だが、これって例えば北東北であるとか、北岩手だとか、そういうところってどこでも出てくると思う。

群馬県でも北の何とかがあってあるし、青森にもある。それとは全然違うやつを考えた方がいいかもしれない。これは、冗談だと思って聞いてもらいたいが、私だったら、酒とうるしのまち二戸とか、そんな感じで行くかと。これは誰も使わない。そういうような誰も使わないキャッチフレーズって何か考えた方がいいのではないかなと思う。

ぜひ、入れてほしいのは、子育てが二戸の市民の方たちが一番アンケートをとっても多いので、何とかそういうのが生きるような、特に実施計画で出てくるのかもしれないが考えて欲しい。

○委員

今、将来像とキャッチフレーズがごっちゃになって考えている状況だと思うが、課長さんがさっきお話していたように、キャッチフレーズは行動目標である。こういう未来に向かって我々はこういうことをして行くんだというものがキャッチフレーズであるという考え方が一番分かりやすいんじゃないかなと思う。

なので、結果として将来像を出来るだけ早く掲げたいというのが一番であるが、これを両方並行して進めるとどっちもどっち、例えばキャッチフレーズにはこれが入っているのに将来像にはこれが入っていないことが起こりうるので、やはり線引きをしてキャッチフレーズの立ち位置をはっきりさせて考えるべきだと思う。今、両方本決まりで無いので混乱していると思う。

○会長

非常に大きなテーマであるし、将来も長いので、その中でキラッとしたものを決めるというのは非常に難しいのであるが、行政レベルでキャッチフレーズをばっと出してもちょっと狭いような気もする。どちらかといえば皆さん方のご意見をいただいて、そして、それをまとめて出すとか、あるいは公募するとか色んな方法があるわけだが、しかし、限られた時間があと2回しかないなので、それをしていくためには、何案か次回あたりに出させてみたいがどうか。

たたき台を出していただく。決めるのは皆さんで決めていただく。そして、それにご意見を賜るという形で5回目に持っていきたいと思う。

○委員

キャッチフレーズとは私も何回か考えなければならぬ立場になったこともあるが、それが一番まとめきれなくて、苦手である。例えば今作ろうと思っているキャッチフレーズが、市の職員がキャッチフレーズを基にして市のために何か行動する基準になるものなのか、市民全体が二戸市の将来に対してこういう思いを持ちましょうという風に広めるものなのかで出来てくるものも違ってくると思う。

市がうちの市はこういう市なんですと、こういう風になっていきますというのを例えば近隣の市町村から人を引っ張ってきたいというようなところに向かって二戸はこういう市になるので、仕事しに来てください、移り住んでくださいという風にするのであれば、またそれはそれで違うものになってくると思う。

その辺も何か考えてみると、どれに持っていくものなのか、そういうものを三つ作って、三つそれぞれにするものなのか、何か1個ドンと作って、そのほかにサブタイトルではないけれども、何かつけるものなのか、一つやった時にも、例えば政策の1、2、3とあるが、その中で政策ごとに一つずつ何かみたいなものをサブタイトルみたいにつけるのかという考え方がちょっと分かりかねるようなところがある。

基本計画になってくるかもしれないが、政策が1、2、3とあって、しごと・産業・交流という部分が、例えば企業で行くと、ここが売り上げだったり利益につながる部分だと思うのでこれがしっかりしなければならぬ。施策の2とか3は従業員の福利みたいところで、やはり一番最初に仕事をするとところがあって、お金が入ってきてというところを頑張るためには、土台・原動力になるところのシティセールスの部分、二戸を売り込むとか、観光客を誘致したり、企業を誘致したり、ブランド品を発信したりというところが一番重要なところになってくるのではないかなと思う。

対外的なところで作るキャッチフレーズだとそういうところを考えていかなければならぬと思うので、漆であったりブランドであったりという言葉が入ってくるのもいいのではないかなと感じる。

そういうのをいろいろと悩みながら、考えながらいるが、いずれ外に向かっていくものだとするとそういう所を入れていきたいなという気がする。

政策1のところの仕事とかのところにある地産地消という部分だが、私はあまり地産地消という言葉が得意じゃないというか、地元の人が地元の物を使いましょうという部分はすごくいいことだと思って進めたいと思うが、ちょっと考え方を逆の方に見てしまって地元に使ってもらうために作る方向に考えてしまうと思うので、南部せんべいさんとか南部美人さんとかは材料だったり従業員は地元で、地産地消で地元から仕入れているが、売り先は海外だったり日本の主要都市だったりという大きなところに持っていつているので、やっぱり、地産地消ではなくて他で消費してもらうようにする部分をもっと大きく考えないと地元の中でだけ回しただけでは人口が減っていつているのに、地元の中でだけ回していつて、それが回る部分は回すのがすごく重要だと思うが、それで小さくなっていつてしまうとせっかく頑張って地元でやっているものが外に出て行かない。高級な魚とか高級な果物は全部築

地に持っていかれるとか銀座の料亭に持っていかれて地元では手に入らないという、そういうところが理想なんではないかなと、地消ではなくても地元になんだというくらいのブランドになってくれるようなものをどんどん作ってあげればいいんじゃないかなという風に思った。

そういうのをひっくるめてじゃあそれをキャッチフレーズにどうするかというのはちょっと私は最後まで難しいなと思っている。

○委員

キャッチフレーズについての話が進んでいるが、先ほど委員から話があったとおりキャッチフレーズというものが市民に浸透するものでなければいけないのかなと思う。

先ほどの話にもあったとおり、内側の職員もそうだが、一番はそこに住む人、あるいはそこに住むであろう、住む要因がある人たちにそういうフレーズが浸透していかないとやはり人は来ないのかなという風に思った。

その内容についてであるが、私も先月ニューヨークの研修に二戸市の事業で行かせてもらって思ったのは二戸の文化、地域資源である酒と漆の話だった。世界に通じる商品が二戸にあるというのを実際にそこに参加してそういったものを体験した。

売り出すものがあるからそこに興味のある人が来るという人の流れができていくのかなと思う。先ほど地産地消という言葉があった。こういったものを確かに外側に発信するのもそうであるが、実際にそれを見てそれを地元で体験しに来る人がいるというのも一つである。

内側でもそういった商品を回していき、来てもらった人にその文化、そして使用している現状というのを見てもらいながらそういったものを体験してもらおうというのもまた一つの交流人口を増やすための取り組みでもないかなと思う。

やはり、世界に売り出す漆というものを私も改めて研修中に体感して、その世界に通じるものがあるにも関わらず私も実際に浄法寺の方というような区間で仕切ってしまったところもあるので、二戸市全体としての資源という意識が地域には浸透が行き届いていない部分もあるのではないかなと思った。

そういう意味でもキャッチフレーズというのは二戸には何があるというようなところが分かる、あるいはそれが伝えられるようなものがないのではないかなと思う。

○委員

私もキャッチフレーズと言われてもピッと出てこないが、資料2のみんなの夢と基本理念というのが一緒になった形のところでうまく組み合わせるといいのが出てくるのではないかなと思う。当然人づくりというのは一番大きく目標として掲げてきているので人づくりをどういう形でやればいいのかちょっと分からないが、それを入れていただきたいという気持ちがある。

あと、市民全員がそうだなと思うキャッチフレーズにしないと駄目だなと思う。大きく作りすぎて何となく分からないものだとだめで、みんながなんとなく共感を持てるような、で、みんなが挑戦しよう、それに向かってみんなが挑戦すると出来るかもしれないなと感じるそういうキャッチフレーズになるといいのかなと思う。

市民全体を奮い立たせるような何かそういう文言があって人づくりを中心にしたところで、うまく言えないがそういう感じのものが出てくるといいのかなと思う。

○委員

企業には経営理念があり、社員の行動指針というものがあるということで、先ほど聞いたところではキャッチフレーズはいわゆる行動の指針となるようなものだとすることを事務局の方で答えられた。

となればこのキャッチフレーズというのは先ほどから出ている市民なり企業なりそこで暮らす人たちが今後課題なり夢なりを共有しながら暮らしていくための方向性であるという風に認識した。基本理念のところ、先ほどからずっと出ているのが人というところがキーワードになってくるんだろうと思う。人というのは人口としての人であり、リーダー的な人材としての人というところを育てて行こうというのはみんな共有しているところだと思うのでそういったところが基本理念にあり、指針としてのキャッチフレーズになるといいなと思った。

やはり、人としても何も無いところに増えていくはずは無いのでという風に考えていくと何らかの対策を取っていかなければならない。となればさきほどちょっと出たが、教育の部分を何らかの形でづくり、人を育てるための機関というのがあるとか、何か無いと、ただ二戸に来てくれと言っても人は来ないんだろうと思う。そういうものがあるって人を育てるというものがあるから周りから人が集まる。周りというのは近隣の市町村であっていいと思う。そういうところから人が集うような何か具体的な政策というのが組めるとさらにいいのかなという風に感じた。

○委員

先ほどから拠点都市という言葉が良く出ているが、私も小さいときから二戸というのは北の要であり、拠点であり、代表であると思ってきている。何となく拠点性が薄いんでいる、それは二戸が怠けているわけではなくて周りが頑張っているからじゃないかなと思っている。

県北の代表として、先ほど漆とか酒とかあったが、そういうものに限らずゲートウェイという格好つけすぎだが、県北の代表として一戸だ、軽米だ、山形村とかそこら辺も含めて全部二戸のものと言っては怒られるが、二戸市を通して売り出していくと。世界に開かれているのは間違いなく二戸である。

そういうところにどどんくつけていって、県北パワーとして持っていくような力強い方向性が欲しいと外から見て思う。

○委員

正に知恵比べというか、ここには日本一というキーワードが漆という文化とプロイラーも日本一の部類に入ると思う、それから葉タバコという3つのキーワードが先ほどからたくさん出ているが、産業振興なり、雇用創出なり、人材育成、これらがしっかりしていかなないとまちは廃れていくというのは当然のことである。

二戸が誇るそういう一番の部分が行動目標にしっかり出てきていいのではないかなという風に思う。

色々漆の文化もあるが、様々な部分でユネスコ的な部分、見させていただいたが、文化遺産登録こういったものも含めて日本ユネスコ協会ではプロジェクト、未来遺産ということでもあろうかと思う。これに応募するとユネスコ遺産に早く到達するというようなお話もある。そういった世界に向けてやれるようなそういった部分も必要になってくると思うし色々な意味で地域がしっかりとPRできるようなキャッチフレーズを、先ほどあったが、事務局の案も含めて皆さんの思いを出せばいいのかなと思う。

○委員

私は専門が福祉なので、どちらかというやんわりした世界で仕事をしている。なので、仕事とかという部分にうとくなっていて、勉強不足で皆さんの発言を十分理解していない部分もあるかもしれないが、逆に言うと福祉的に考えられる部分でお話するとキャッチフレーズのところで言えば今まで皆さんで協議してきたそれぞれのテーマであったり、あるいは、今後の進める方向性であっても当然ながら人ということになる。

当然、二戸がいいまちであるかというのも人であるし、そう思わせるのも人である。当然、市の構成も住民でできている。それを支える側として行政がある。という部分で人というところをどう捉えていくのかという表現になってくるのかなと思う。

そういった中で人が一人では何もできないというような生き物であるのでそういった関係からいうとつながるという部分が重要になってくる。私も仕事柄一つの世帯に介護の問題、障害の問題、子育ての問題、経済的な問題という複合的な課題を抱えている方からの相談に対応する場面が最近多くなってきている。

そうすると、一つの部署、あるいは機関だけではその世帯は救えないという状況である。そうすると横につながる、横断的な関わり方がどうしても必要になってくる。そういった意味でいうとこれからの二戸を作っていくのもやはり人であるし仕事も人である。ということから考えると人が人を作っていく、そして、人が人につながっていく、そして人が二戸を作っていくという風な考え方のキャッチフレーズとかイメージというものが頭の中に浮かんだ。

ただ、弱いと思う。ちょっとやんわりとしているので。ただ、福祉的に考えると人という言葉を大切にしたい捉え方をしていければいいのかなと感じている。

○会長

予定されていた時間から30分を超過していて、次の予定がある方もいるようである。大変申し訳ないが、私から一つ提案をさせていただいて、終わりたいと思う。大体今日皆さんの話を聞くと基本構想、つまりキャッチフレーズを早く掲げてそれに向かっていこうという風なニュアンスが強かったような気がする。

もしよろしければ、次回5回目にはもうちょっと膨大な資料もあれだが、まとめてそしてまた基本構想についてももう少し具体的に皆さんにしっかりご意見をいただくようなたたき台を出していただきたいと思うがいかがか。

これを公募したりあちこちからやると大変なのでそれについて5回目に意見をいただきたい。そういうことで今日は終わらせていただきたい。

以上をもって第4回の会議を終了したい。ありがとうございました。

(2) 今後のスケジュールについて

なし

(3) その他

なし

5) 閉会